



Supported by

Centre for
Mental Health



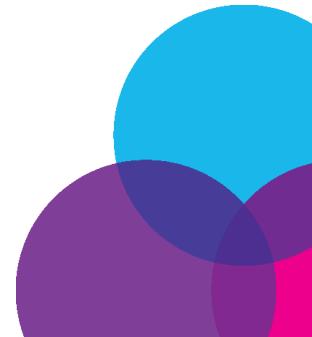
Nottinghamshire Healthcare **NHS**
NHS Foundation Trust

ようこそ!



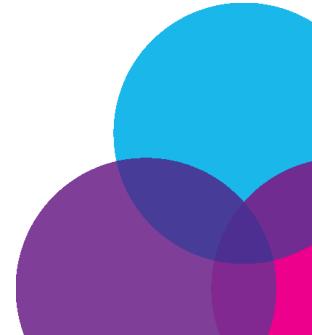


イントロダクション



Getting to know you Bingo!

(ウォーミングアップ、お互いを知るためのbingoゲーム)



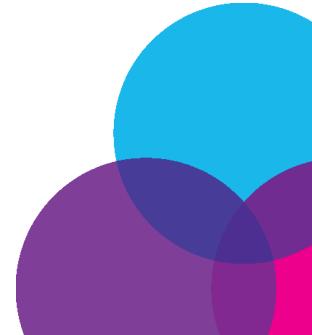
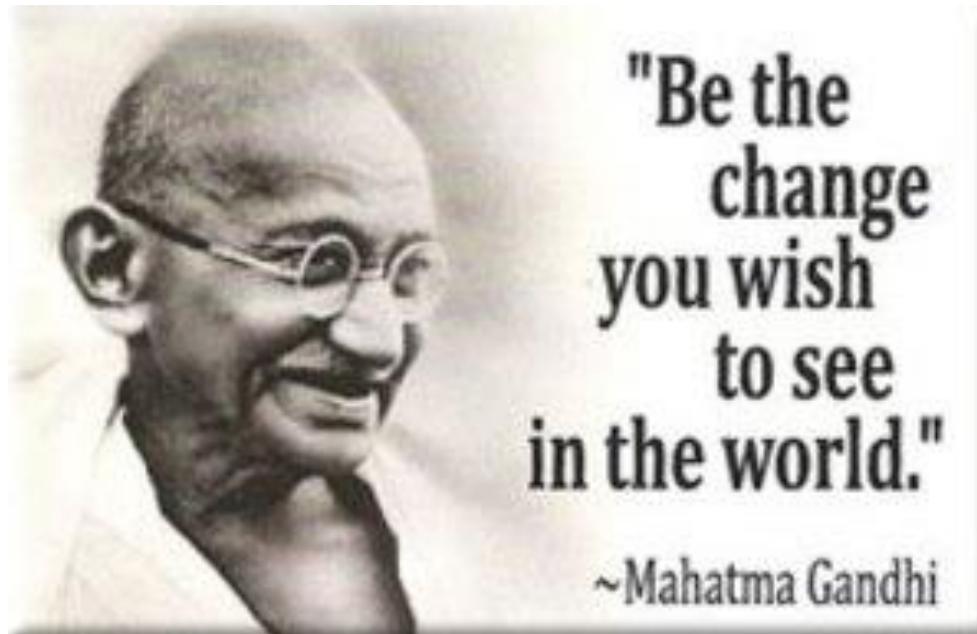
グループの合意

まずは今日どのようにお互に一緒に過ごした
いかについて話しましょう。そうすることで、分
かち合い、学べると感じることができるから。





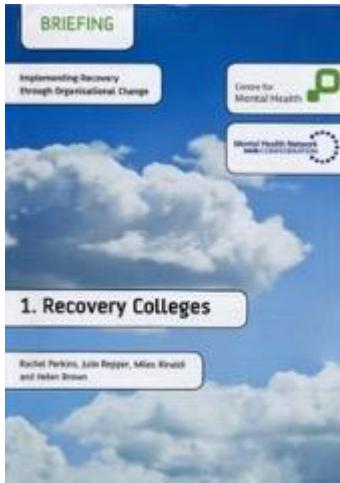
これから数日の間に、あなたが期待していることはなんですか？





なぜリカバリーカレッジを作ったのですか?





リカバリー・カレッジの特徴を定義する

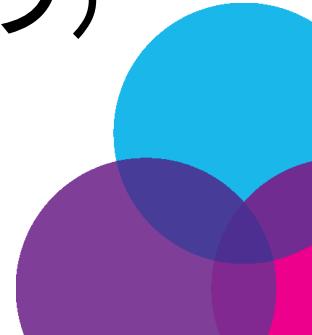
1. メンタルヘルスに関する個人的な経験を持つ人と専門的な経験を持つ人との間のコプロダクション(協働・共同創造)
2. 複数の教室と、人々が自分自身の調査ができるような図書館を備えた物質的な基盤(建物)
3. カレッジの原則に基づいて運営する
4. 誰も排除しないという条件 – 全ての人間に開かれている
5. 生徒にはそれぞれ、個別のチューター(もしくはそれに準ずる者)がつき、彼らから情報や助言、ガイダンスが提供される
6. リカバリー・カレッジは、昔ながらのアセスメントや治療の代わりではない
7. リカバリー・カレッジはまた、主流のカレッジ(大学)の代わりでもない
8. カレッジの文化のあらゆる側面に、リカバリーの原則が反映されなければならない



6つの側面

(McGregor, 2014)

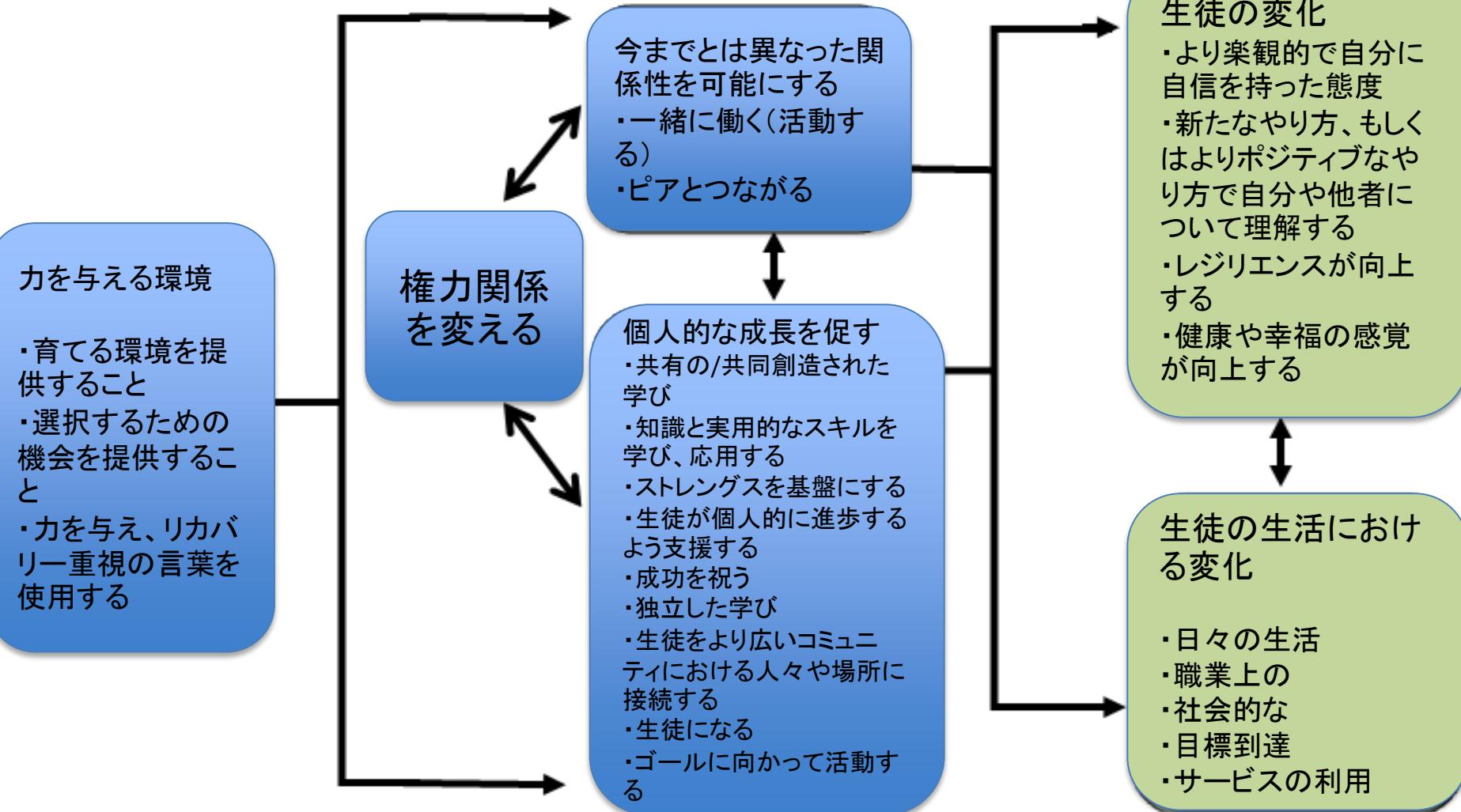
- 教育的
- ストレンジス・ベース
- パーソン・センタード
- 常に進歩する(プログレッシブ)
- コミュニティ重視
- 色々な人が参加できる(インクルーシブ)
- 協力、提携





仕組み変える

結果



RECORLLECT フィデリティ評価基準

変更不可能な部分

- 平等であることを尊重する
- 学生に合わせる
- 社会的なつながり
- リカバリーへの深い関与
(コミットメント)
- 学ぶこと
- コプロダクション(協働・共同創造)
- コミュニティ重視

変更可能な部分

- あらゆる人々が利用できる
- コースの内容の独自性
- ストレングス・ベース
- 場所
- 常に進歩する





Supported by

Centre for
Mental Health



Nottinghamshire Healthcare NHS
NHS Foundation Trust

1. 平等であることを尊重する

生徒、トレーナー(ピア、臨床家、外部の人)、そしてその他のスタッフの貢献と資源は等しく尊重される。誰一人として、自身の経歴やメンタルヘルスの困難があることによって、異なる判断をされたり、異なる扱いを受けることはない。

現在の発展段階

スタッフと学生が、パートナーシップを基盤とした関係性を発展させるためには、時間をする可能性があるということを、私たちは認識している。カレッジで差別や勢力の不均衡の問題が起こることがあれば、私たちはそれらの問題にのみ対処する。

カレッジにおける全ての関係性が、チャンスやトレーニングなどといったものの平等な分かち合いを示していると、積極的に保証するわけではない。しかし、私たちは次のことを確かに保証する。それは、カレッジがあらゆる人々に対して開かれているということ、また、平等であることを促進するための、そしてステイグマや差別に対抗するための、いくつかの所定の構造が存在しているということだ。

私たちは、他者を一方的に判断せず、歓迎する文化の形成を積極的に促進する。カレッジ内における権力の問題が、常に考慮されることを保証するための活動を行う。

回答(チェック)



2. 学ぶこと

リカバリー・カレッジは、学生とトレーナーが、自身の経験や知識、スキルを共有することによって、お互いに協力し合い学び合うという成人のための教育アプローチに従う。

Supported by

Centre for
Mental Health



Nottinghamshire Healthcare
NHS Foundation Trust

現在の発展段階	回答(チェック)
私たちちは、成人の学びについてのカレッジのモデルに対するエビデンスを提供することはできない。私たちは、発展を妨げる膨大な要素があること、ピア・トレーナーの養成のための資源が限られていることを知り得る。	
私たちは、成人の学びについてのカレッジのモデルを明確に言い表すことができる。トレーナーが教育の原則に従うこと、また、コースがコ・ラーニング(共同の学び)を含むことを保証するために、いくつかのコースが適切な場所に配置されている。	
私たちは、カレッジが、成人の学びについての原則に最大限深い関わり(コミットメント)をすると証明することができる。このことは、カレッジの設立趣意書、カリキュラム、そしてコースの教材を見れば明らかである。全てのトレーナーには、成人の学びについての、現行の、公式なもしくは公認のトレーニングが用意される。	



3. 学生に合わせる

リカバリー・カレッジは、様々な人々に対応する経験は提供しない。カレッジでは、生徒たちの個別のニーズを積極的に聞き取り、コースの過程でそれらに対応する。コース以外の彼らのニーズについても対応する。

現在の発展段階

回答(チェック)

カレッジが学生たちのための個別の経験を提供する方法を、私たちは実際に提供できていない。トレーナーは、授業中に学生たちの違いに配慮したり対応するほどには十分に支援されたり訓練されたりしていない。

私たちは、学生の個別のニーズへの対応方法をいくつか持っているが、いまだに満たされていないニーズがあることを認識している。

私たちは、コースの過程でもコース以外でも、学生の個別のニーズに対応する沢山の方法を持っている。トレーナーたちは、前もって学生たちのニーズに気づき、コースの内容や展開にどのように適応していくかについての指針を提供できる。



4. リカバリー・カレッジにおけるコプロダクション

生きた経験を持つ人々(ピア・トレーナーと学生)は、専門家や特定の分野の熟達者とともに、リカバリー・カレッジのあらゆる側面を設計し、提供する。この過程には、すべてのコースの共同設計(コデザイン)と共同提供(コデリバリー)だけでなく、共同での意思決定も含まれる。

現在の発展段階	回答(チェック)
私たちは、リカバリー・カレッジの設計と運営についての意思決定に、規定通りに生徒とスタッフを含めている。コプロダクションにおける私たちの成功の多くは、コースの共同提供(コデリバリー)に拠っている。私たちは、リカバリー・カレッジの文化、経営におけるヒエラルキー、時間を含め、カレッジにおけるコプロダクションの著しい障害が、現在いくつかあることを認識している。	
私たちは、コースを絶えず共同提供(コデリバリー)すると同時に、リカバリー・カレッジの設計と運営についての多くの議論にスタッフと生徒を含めている。しかし、マネージャーが多くの決定を下している状況である。	
私たちは、コプロダクションの文化があること、それをカレッジ全体において利用していることを証明する。カレッジのすべてのレベルにおける意思決定の過程で、トレーナーと生徒の声は等しく取り上げられる。それは共同提供(コデリバリー)、カリキュラムの向上、物理的環境の管理と設計などを含む。	



5. 社会的なつながり

カレッジの文化と環境の双方が、学生に社交のためのチャンスを提供する。トレーナーは、生徒の社会的なニーズを認識し対応する。E.g. エクササイズやおしゃべりのための休憩の時間を設ける、経験を共有し友好関係を構築する。

現在の発展段階	回答(チェック)
コースの構造と物理的な環境について決めるにあたって、リカバリーカレッジのアジェンダにおける学生の社会的経験は少ない。コースが開催される場所においては、教室以外で、生徒がリラックスしたり、交流できるようなスペースはない。	
リカバリーカレッジは、学生を歓迎する環境であることを保証する。トレーナーたちは、可能な場合には、コースの間に交流のための機会を提供することが奨励されているが、このことは彼らの中心的な役割ではない。コースが開催される場所の一部分には、教室の外で生徒たちがリラックスできる設備があるが、これに対して実用的もしくは経済的な面でかなりの障害がある。	
リカバリーカレッジは、学びとリカバリーにおいて、学生たちの融合やつながりが果たす役割について認識している。カレッジは、交流のための様々な設備を提供する。トレーナーたちは、コースの仕組みの中で学生たちがお互いに近しい関係を構築できるような機会を統合する支援を受ける。	



6. コミュニティ重視

リカバリーカレッジは、関連するコースを共同創造するために、地域の組織やファーザー・エデュケーション・カレッジ（継続教育のためのカレッジ）と関わりを持っている。カレッジは、情報、価値ある活動において生徒をサポートするためのハンドアウトやイベント、役割、関係性、そして地域における支援を生徒に提供する。

Supported by



Nottinghamshire Healthcare NHS
NHS Foundation Trust

現在の発展段階

回答(チェック)

地域の組織との連携は限られている。地域組織は、カレッジのミーティングやイベントなどには含まれていない。もしくは、地域組織がコースを共同創造したり、スタッフや学生に対し、良い機会を促進するために定期的にカレッジと共同するなどということはない。

私たちは、カレッジのコミュニティサービスや、地域組織との関係性への意識を構築するために、いくつかの活動を行なっていることを保証する。カレッジのいくつかのコースは、地域組織との共同創造によって作られており、学生は、支援のための関連する地域組織について明示されている。

私たちは、カレッジのコースを共同創造するため、そして学生の道筋を促進するために、様々な地域組織と協働している。地域組織との協働がカレッジにおける変革をもたらすことを保証する。



7. リカバリーへの深い関与(コミットメント)

リカバリーカレッジで働く人々は、支援について強い信念と熱意を持って会話をし、学生のリカバリーに献身する。カレッジの中やカレッジでの活動にはポジティブな力があり、それはカレッジの土台となっているリカバリーの原則についての共有された価値に基づいている。

現在の発展段階	回答(チェック)
私たちの組織のポリシーとやり方により、リカバリーカレッジが円滑に運営されることは保証されているが、働く人がリカバリーの原則を促進するうえで、個人的な投資に対する障壁がある。他と何か「違う」もの、そして「意味ある」ものとしてのカレッジを設立するために必要な努力が、未だ残されている。	
私たちは、リカバリーの原則を促進するために、お互いに積極的にやる気を起こしあっている。カレッジのリカバリー重視を向上させるため、絶えず、お互いにコミットメントを共有しているが、進歩(プログレッシブ)へのいくつかの障壁があることも認識している(例えば文化的、経済的)	
私たちは、カレッジにおいて、リカバリーの原則を積極的に促進しており、また、共同で熱心に指導をし、カレッジの学生やスタッフのうちの信念を表現する。カレッジの活動は、例えば 卒業式、生徒がトレーナーになるといった実践でリカバリーの原則を表している。	

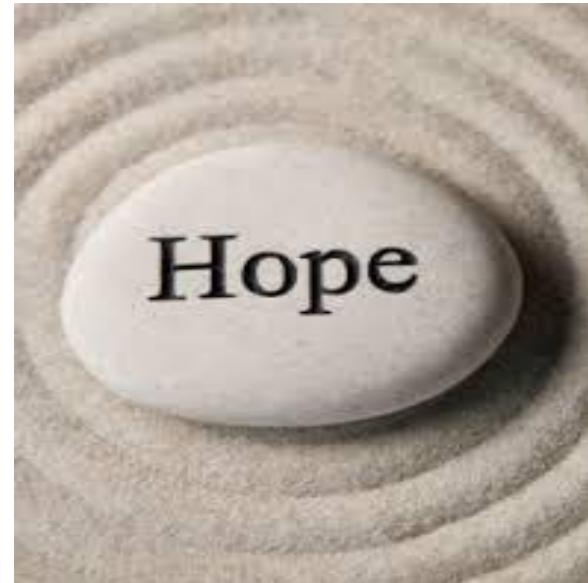
忠実性の評価基準

変更不可能な部分

- 平等であることを尊重する
- 生徒に合わせる
- 社会的なつながり
- リカバリーへの深い関与(コミットメント)
- 学ぶこと
- コプロダクション(協働、共同創造)
- コミュニティ重視

変更可能な部分

- あらゆる人々が利用できる
- 場所
- コースの内容の独自性
- 常に進歩する
- ストレングス・ベース





ImROC

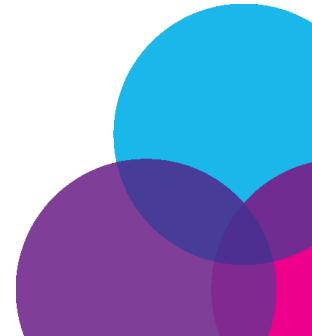
Supported by

Centre for
Mental Health



Nottinghamshire Healthcare **NHS**
NHS Foundation Trust

休憩





コプロダクション

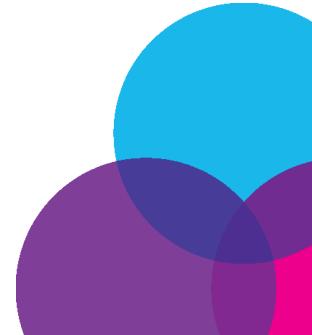


リカバリーカレッジ
の
核となるもの



最も重要なメッセージ

コプロダクション(協働、共同創造)は、非常に大きな恩恵をもたらす、困難だがやりがいのあるプロセスである。これによりわたしたちは、とりわけ、権力と透明性の課題について考慮するよう求められる。



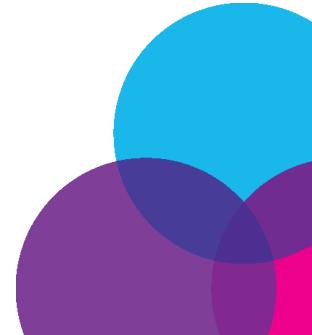
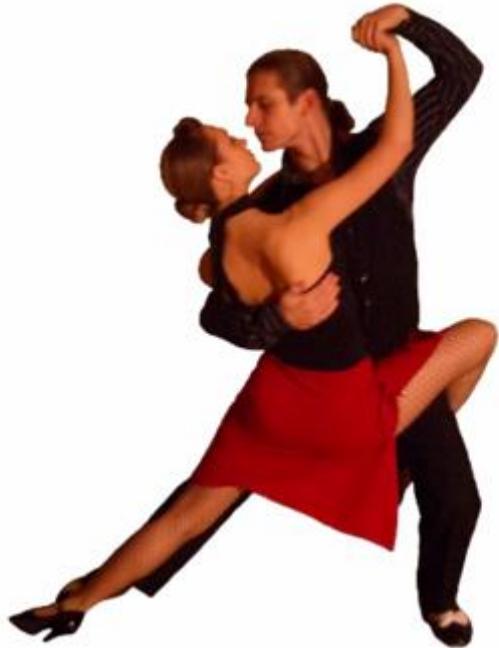
何をすることを目的とするのか ?

コプロダクションの目的のうちの一つは、「コア・エコノミー」を形成することである。これは、コミュニティを結びつける様々な役割や関係性のネットワークのことである。



つまり?

- 「タンゴを踊るには二人必要」
(両者に責任がある、喧嘩両成敗)
- 「共通言語を作る」
- 「どのように他者と関わるかについての考え方」
- 「一人なら早く行くことができるけれど、みんなと一緒に遠くへ行くことができる」





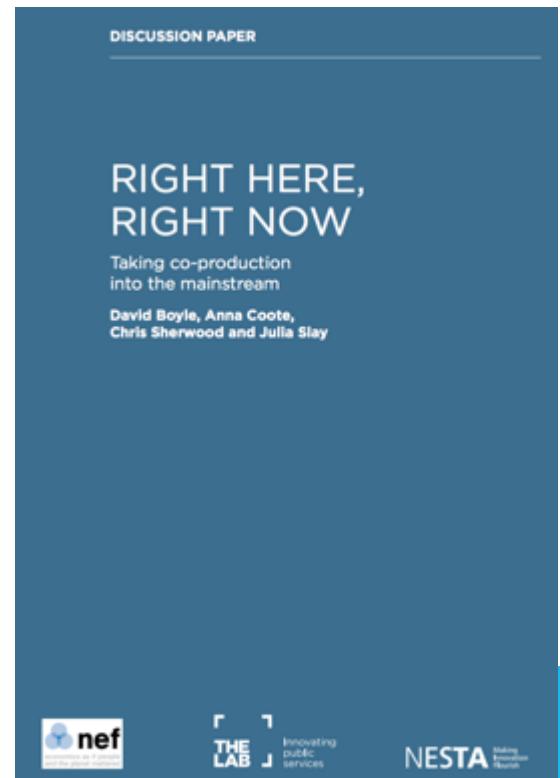
ニュー・エコノミックス (NEF)

- 話し合いや参加についてのことではない – 広い意味を除いて。重要なことは、何かを決定するときに、もっと話し合いをするとか、より多くの人々を含めるとか、そういうことではなく、**公的サービスやボランティアのサービスの提供を促進するために、人々に自分自身が持っているスキルや経験を利用する**ことを奨励することである。
- 地域サービスボランティアのエリザベス・フードレスによれば、**公的サービスの「範囲を広げること、そして深めること」**である。そうすることによって、公的サービスはもはや専門家や委員を維持(保護)するためのものではなくなり、**相互支援の多面的ネットワークを形成し利用すること**双方において、責任の共有をもたらすものとなる。



コプロダクションの6つの原則

1. 人々を資源として認識する
2. 人々が今できることをもとに組み立てる
3. 相互関係と相互利益を促進する
4. ピアサポートのネットワークを発展させる
5. 専門家と受益者の間の障壁を壊す
6. 助けるというよりも促進する





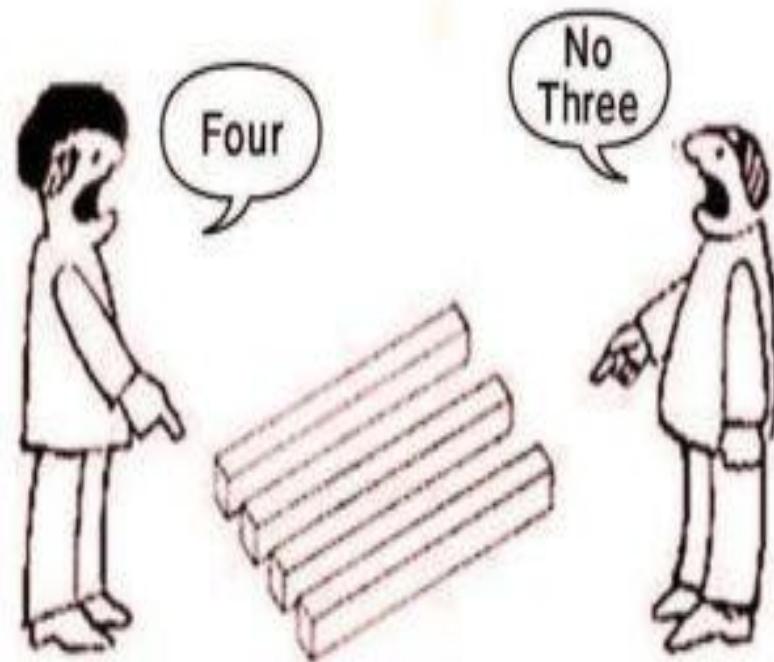
このことはつまり...

1. 人々はサービスの受動的な受け手なのではなく、サービスの向上を促進する資源や経験を有している
2. 権力、資源、リスク、そして結果についての考え方に対する変革アプローチ
3. これを実施するために新たな構造を作らなければならない
4. 協力の過程において、自信を持って有意義に活動するためにはスタッフもサービスを利用する人々もエンパワーされなければならない

Co Production: an emerging evidence base for adult social care transformation (Scie Research Briefing 31, Needham and Carr, 2009)

- コプロダクションは、「関与、関係、包含 (involvement)」の代わりの言葉ではなく、公的サービスにおける人々の役割のことである。
- コプロダクションは、「私たち」と「彼/彼女たち」 -つまり意地の張り合い - ではなくて、私たちのすべての才能を利用し、一緒に活動することである。
- ゴールは利用者主導のサービスではなく、生産的なパートナーシップである。
- コプロダクションは、「サービスの利用者」と「サービスの提供者」だけを含むのではない。ともに活動する人々のスキルのすべて、人々、場所、資源のコミュニティ全体と関係を持つ。
- コプロダクションはコストを削減する方法である。(長期的に見れば、ではあるが)
- コプロダクションは、魔法の杖...
- コプロダクションは「すべて自由」、もしくは「なんでもあり」。

コプロダクションでは ないもの!





ImROC

Supported by

Centre for
Mental Health



Nottinghamshire Healthcare NHS
NHS Foundation Trust

どのように考える?



人工股関節置換手術

これはコプロダクションすることができるか?
そうするべきか?



臨床におけるコプロダクション

- 共同での意思決定
- 共同での安全対策

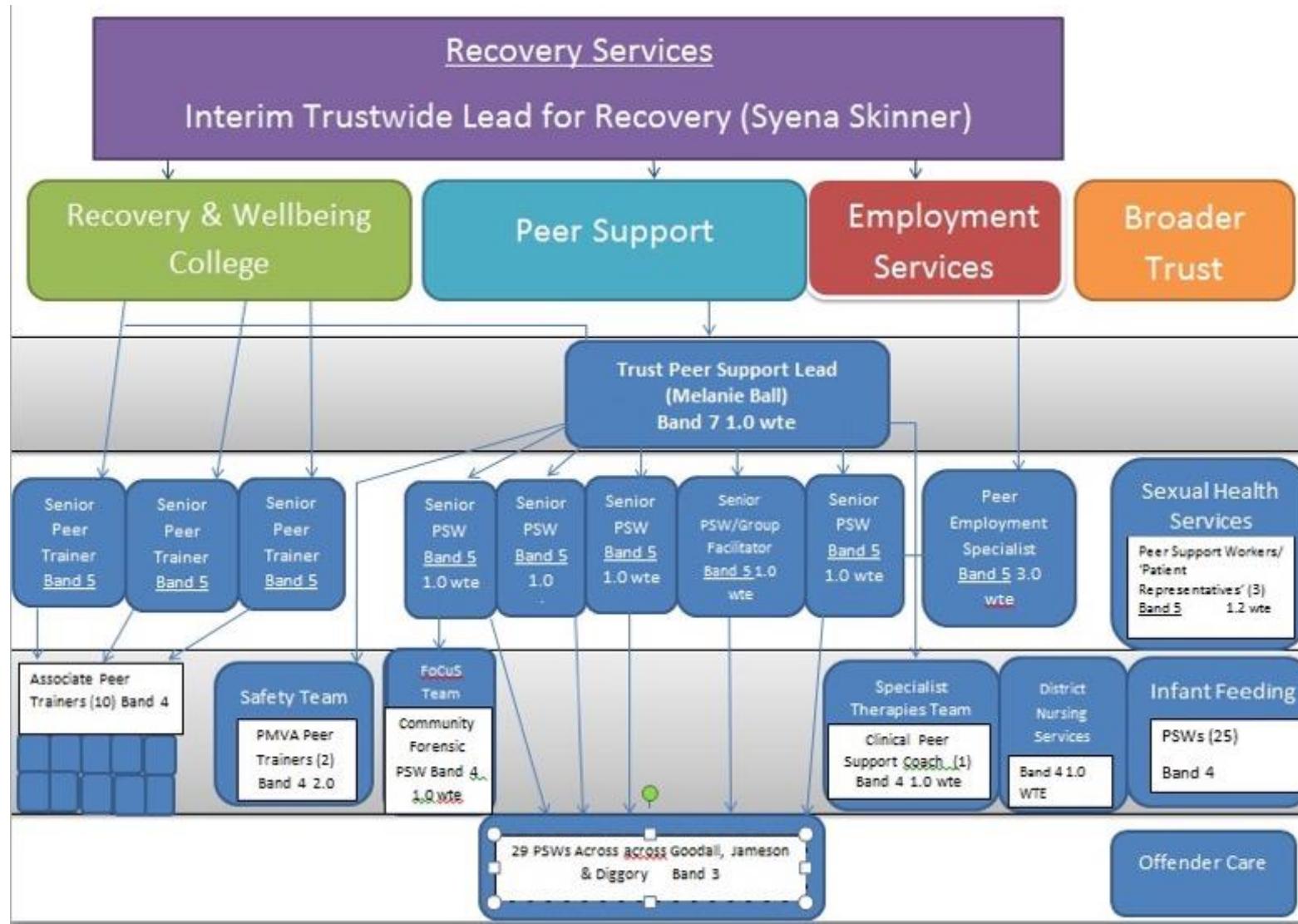


サービスにおけるコプロダクション

- 個人の予算
- ピア サポート ワーカー
- 運営グループ(コミッショニング・グループ)
- サービス評価
- 健康と幸福の促進/ スティグマの撲滅 e.g. Time to Change
- 協働研究
- 協働教育
- タイムバンкиング



ピア・サポートは活動におけるコプロダクションである



想像してみて、あなたは...

- 怯えている
- ひとりぼっち
- どのように感じているか説明できない
- 周りの人があなたと普通に接してくれない
- いつかこの状況を切り抜けられると信じることができない
- 自分自身を信じることができない...



次に、あなたと似たような状況を乗り越えて、生き延びてきた人に出会うことを想像してみて。実際に、そういった人々は、意味に満ちた、何かに貢献する人生を送っているのだ...

ピア・サポートはどのような違いを生み出すのか？

既存のエビデンスを参照したところ、
ピア・サポート・ワーカー(PSW)を
チームに加えることによって…

- a) 危害を与えない
 - b) 支援される人々の生活を向上させる
 - c) 文化に影響を与える
 - d) コストが削減される
 - d) ピアの生活を向上させる



ImROC
Improving Recovery
through Organisational Change

Centre for
Recovery
Research

Centre for
Recovery
Health

Health and Well-being
Agency

Briefing

6. The Team Recovery Implementation Plan: a framework for creating recovery-focused services

Julie Repper and Rachel Perkins

INTRODUCTION

Creating more recovery-focused services requires a change in culture and practice at every level of the organisation (Charmaz et al., 2010). In modern psychiatric health services, the least-lasting issue is the multidisciplinary team, whether it is a hospital ward or in the community.

Supporting recovery through working with the whole team at the centre of the processes of care is critical to the development of a culture that is open to changing the processes and behaviour of front-line staff (Charmaz et al., 2009).

The 'Team Recovery Implementation Plan' (TRIP) was initially developed by Julie Repper and her colleagues in Nottingham and is a tried and tested instrument designed to assist with this goal. This paper describes the instrument and its potential application in mental health services.

Subsequently, enhancing recovery skills and practice into the day-to-day work of individual teams requires two parallel processes:

1. Empowering teams (their staff and peers using services) to translate research ideas about recovery into practice
2. Utilising the skills and resources of everyone at the front-line (staff and peers using services) to develop innovative ways of promoting recovery and recovery environments



ImROC
Implementing Recovery
Oriented Change

Series
Briefing



7. Peer Support Workers: a practical guide to implementation

Julie Repper
with contributions from Shirley Aldridge, Marlene Gilliat,
Steve Gilford, Rachel Perkins and Jane Wilkinson

INTRODUCTION

Our experience with the ImROC programme has shown us that one of the key factors that facilitate the introduction of peer support into the health and social care system is the involvement of people with lived experience of mental health problems. This briefing paper aims to provide a practical guide to help mental health professionals better contribute to change through the involvement of people with lived experience. This paper (and its full report, Pepper, 2010) also discusses the theoretical background to peer support and provides a summary of the benefits of the paper as well as three practical guides to implementation in three areas:

- developing peer worker posts, i.e. useful to those in charge of organisational change;
- the role of peer supporters – of the original workers and the new workers in which peers will be played, and personhood; diversity, of the peers themselves, the way they work and the range of peers to the peers that have been created or existing posts that have been

modified for peer workers. Given the importance of peer workers, it may have not worked at first time, nor will it always, through an iterative process with at least some input from people with lived experience. The whole process needs clearly mapped. Theory, there is the case and the need for a clear, well-thought-out theory of what peer support is about, and how it fits into mental health organisations. Theory, the ongoing development of your worker post, and the need to keep this process to be conducted in the context of the wider healthcare system and the wider social context of services. These different phases, and the lessons learned in each of them.

ピア・サポート

ランダム化比較試験(RCT)による研究結果によって、以下のようなピア・サポートの利益が立証されている:

- 臨床におけるアウトカム(利用者のエンゲージメントの向上、症候学、機能、入院率)
- 主観的なアウトカム(希望、コントロール、主体性、エンパワメントのレベルの向上)
- 社会的なアウトカム(友人関係や地域におけるつながりの向上)⁷³.

ピア・サポート・ワーカーによってコストが削減される(PSWを急性期病棟の追加スタッフとして雇用することによって、サービスの利用量が減少し、したがってコストが削減される – 各PSWの給料三回分)

“既存のいかなるメンタルヘルスの専門グループや支援モデルよりも、ピア・ワーカーの方が価値があることを支持する相当に多くのRCTによるエビデンスがある” (Slade et al, 2017)



ImROC

Breaking down walls...

Supported by

Centre for
Mental Health



Nottinghamshire Healthcare **NHS**
NHS Foundation Trust



グループで、大きな紙を一枚広げて、レンガの壁を描いてみてください。それぞれのレンガに、あなたが今後挑戦だと思う、コプロダクションに関係することを書いてみてください。

- 個人的に？そして／もしくは 専門家として？
 - 組織として？





ImROC

Breaking down walls... Part 2

Supported by

Centre for
Mental Health



Nottinghamshire Healthcare
NHS Foundation Trust



私たちの挑戦のリストを
もう一度見直してみてください

私たちはどのようにこれらに取り組んでいるのか？



参考文献

The Health Foundation What is co-production? (2010)

Nesta People powered health: co-production catalogue (2012)

Nef/ MIND Co-production in mental health – a literature review (2013)

Scie Co-production in social care: what it is and how to do it (2013)

Nef Commissioning for Outcomes and Coproduction (2014) -



参考動画



Experiences of social care

<https://www.youtube.com/watch?v=rIKCL0WSPco>



Stories of Coproduction

<https://www.youtube.com/watch?v=aKATrzUV2YI>

Online info

www.hcct.org.uk

www.timebanking.org

www.expertpatients.co.uk

www.personcentredcare.health.org

www.coproductionnetwork.com

www.neweconomics.org

www.nsun.org.uk

www.scie.org.uk

